

科目名 (英)	ラッピングコーディネイト	必修 選択	必修	年次	I		
	(Wrapping Design)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 I	開講区分	後期
学科・コース	お菓子専科						
【授業の学習内容】							
ギフト需要のある商品を提供する側に於いて、お客様のニーズに合わせた包装に精通するのは必要不可欠である。 しきたりを理解すると共に、箱を包む方法、のし紙の扱いや、リボンの掛け方等、実務上即必要になる技術を習得する。 資材選定やディスプレイにも役立つ発想力を養い表現できるようになる。							
【到達目標】							
日本におけるしきたりを理解し、慶弔をふまえた基本の包装(合わせ包み・斜め包み・ふろしき包み)が提案できる。 主要なりボン掛けと蝶結びができる。 柔軟な発想と材料で商品に彩りを加え、提案することができる。							

授業計画・内容	
1回目	包装の必要性、付加価値について理解し、説明できるようになる。
2回目	合わせ包みができる。横一文字掛けリボン、基本の蝶結びができる。
3回目	厚みの薄い箱の合わせ包みができる。縦一文字掛けリボンとV字掛けリボンができる。
4回目	天地が正方形の箱の合わせ包みができる。十字掛けリボンができる。
5回目	斜め包み(処理有り)の手順を理解する。斜め掛けリボンができる。
6回目	斜め包み(処理無し)の手順を理解する。斜め掛けリボンができる。
7回目	ふろしき包みができる。全て表を出す蝶結びができる。
8回目	贈答のしきたりを理解し、適したのし紙が選べるようになる。慶弔包み分ける事ができる。
9回目	ソフトペーパーの特性を活かして包み、リボンの組み合わせアレンジができる。
10回目	リバーシブルペーパーの特性を活かして包み、方向性のあるリボンを正しく結ぶ事ができる
11回目	包装紙から紙袋を作れるようになる。様々な袋のアレンジラッピングができる。
12回目	商品に適した個包装技術を習得し、適した材料を選べるようになる。
13回目	自由な発想で材料を選び、包装し、ディスプレイできるようになる。
14回目	定期テスト内容を復習し、不明瞭な箇所を明確にし、指導できるようになる。
15回目	試験前対策。最終確認をして、スムーズに包みわかる事ができる
準備学習 時間外学習	前半8回目までに習得する包みとリボン掛けは、手順を理解した後は、箱のサイズや材料の質感を変えて復習が必要。 店頭で既にラッピングされた商品を見ることで、包装方法や材料の多様性を見出だすアンテナが必要。
評価方法	試験点100点満点で評価する。
【使用教科書・教材・参考書】	